

人材育成に関するアンケート（概要）

1 調査の目的

教員の資質能力向上・人材育成に関しての保護者、市町村（組合）教育委員会教育長、管理職、教員の意識を把握し、教員の人材育成の在り方を検討する際の参考資料とする。

2 実施主体

京都府教育委員会

3 調査対象（抽出調査）

- (1) 府立学校 11校、府内公立小中学校 39校（小26校、中13校）
（全校長・教頭（府立は副校長）・全教員・各校保護者3名程度）
- (2) 全市町村（組合）教育委員会教育長 27名（重複なし）
- (3) 調査実施日 平成18年6月30日

4 回収結果

- (1) 保護者標本数（有効回収率 86%）

	有効回答数	標本数	有効回収率	対象校数
小学校	88	104	85	26
中学校	46	52	88	13
高等学校	30	36	83	9
盲聾養護学校	7	8	88	2
計	171	200	86	50

- (2) 教育長標本数（有効回収率 100%）

	有効回答数	標本数	有効回収率	対象校数
計	27	27	100	27

- (3) 管理職標本数（有効回収率 100%）

	有効回答数	標本数	有効回収率	対象校数
小学校	52	52	100	26
中学校	27	27	100	13
高等学校	20	20	100	9
盲聾養護学校	11	11	100	2
計	110	110	100	50

- (4) 教員標本数（有効回収率 79%）

	有効回答数	標本数	有効回収率	対象校数
小学校	368	418	88	26
中学校	224	248	90	13
高等学校	351	509	69	9
盲聾養護学校	89	135	66	2
計	1,032	1,310	79	50

人材育成に関するアンケート結果から

【求められる京都府の教員像】に関連して

問1 教員にとって重要であると考えられることは何か。

(%)

順位	保護者	教育長	管理職	教員
1	わかりやすい授業(67)	わかりやすい授業(81)	わかりやすい授業(85)	わかりやすい授業(86)
2	児童生徒の自主性や個性の尊重(51)	使命感や責任感(67)	使命感や責任感(62)	児童生徒の気持ち理解(47)
3	使命感や責任感(46)	生活態度やしつけ指導(52)	他の教職員との協力(48)	児童生徒の自主性や個性の尊重(42)
4	児童生徒の気持ち理解(44)	公正・公平な態度(37)	保護者との信頼関係(48)	学び続ける意欲(41)
5	公正・公平な態度(44)	他の教職員との協力(37)	児童生徒の気持ち理解(40)	人間的な魅力(39)
5	人間的な魅力(44)	人間的な魅力(37)	人間的な魅力(40)	————

- すべての回答者において「わかりやすい授業をして児童生徒の学力をつけること」が最も多かった。
- 保護者が重視している項目は、「児童生徒との関わり」とほぼ同じ割合で、「教員自身の使命感や責任感」、「公正・公平な態度」及び「人間的な魅力」が上位に挙げられている。
- 教員が重視している項目は、「児童生徒との関わり」と自らの「学び続ける意欲」及び「人間的な魅力」であった。
- 教育長や管理職が重視している項目は、「教員としての使命感や責任感」、「他の教職員との協力」及び「人間的な魅力」であった。教育長は「しつけ指導」及び「公正・公平な態度」が、管理職では「保護者との信頼関係」及び「児童の気持ち理解」が挙げられている。

【研修について】に関連して（教育長・管理職・教員）

問2 「初任者研修の資質能力を高める研修に関して重点実施すべきもの」について (%)

順位	教育長	管理職	教員
1	教科指導力(81)	教科指導力(86)	教科指導力(77)
2	生徒指導力(78)	生徒指導力(75)	生徒指導力(71)
3	児童生徒の心の豊かさ(33)	対人関係スキル(61)	児童生徒の心の豊かさ(44)
4	対人関係スキル(33)	児童生徒の心の豊かさ(42)	対人関係スキル(43)

- 教育長、管理職及び教員ともに、「教科指導力」と「生徒指導力」の2項目が、70%を超えて、他の項目を引き離して上位であった。
- 「児童生徒の心の豊かさを育てる研修」及び「対人関係スキル・コミュニケーション能力」も割合が高く、後者は管理職で61%にのぼった。

問3 「総合教育センターの研修（悉皆研修以外）」について

(%)

順位	教育長	管理職	教員
1	重要性を比較してその都度指示をする(33)	重要性を比較してその都度指示をする(49)	校務を優先させたいので参加しづらい(37)
2	機会あるごとに教員に勧めたい(30)	機会あるごとに教員に勧めたい(26)	大学や民間機関の活用(20)
3	大学や民間機関の活用(15)	大学や民間機関の活用(13)	重要性を比較して管理職の指示を仰ぐ(17)

- 管理職の「授業や校務と研修内容の重要性を比較してその都度指示をする」が49%で最も高い割合であった。
- 教員は、センター研修の意義を認めながらも、37%が「校務優先で、参加しづらい」と考えている。「機会があるごとに参加している」は4%しかなかった。
- 「センターだけでなく、さらに大学や民間機関の活用の充実」を挙げた者は、教員20%、教育長15%、管理職13%であった。

問4 「今後さらに充実させてほしい研修（内容）」について

(%)

順位	教育長	管理職	教員
1	生徒指導(56)	対人関係スキル(55)	特別支援教育(46)
2	特別支援教育(44)	特別支援教育(49)	今日的課題(46)
3	対人関係スキル(41)	今日的課題(45)	生徒指導(39)
4	今日的課題(41)	生徒指導(36)	対人関係スキル(37)

- 教育長、管理職及び教員ともに、「対人関係スキル」、「特別支援教育」、「今日的課題」及び「生徒指導」の4項目の割合が高かった。

問5 「今後さらに充実させてほしい研修（対象等）」について

(%)

順位	教育長	管理職	教員
1	中堅教員研修(81)	中堅教員研修(75)	勤務校研修(38)
2	2～5年目研修(67)	2～5年目研修(61)	初任者研修(34)
3	初任者研修(48)	初任者研修(42)	2～5年目研修(34)
4	勤務校研修(41)	センター研修(29)	中堅教員研修(30)

- 教員は、「勤務校研修」、「初任者研修」、「2～5年研修」及び「中堅教員研修」が、それぞれ30%を超えた。
- 教育長、管理職は、「中堅教員研修」、「2～5年目研修」及び「初任者研修」の3項目の割合が高かった。また教育長については、「勤務校研修」も41%あり、他の項目の割合に比べて高かった。